

〈卓球〉世界選手権

4月29日から5月6日までハルムスタッド(スウェーデン)で2018年世界卓球選手権大会が開催されました。世界選手権大会は個人種目と団体種目が毎年交互に開催されており、今年は男女の団体戦が行われ、張本君、長崎さん、そして修了生の平野さんが日本代表として出場しました。

【男子団体】

予選Cグループの日本はイングランドに1対3で敗れましたが、その他の国には勝利し4勝1敗で、グループ2位で決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメント1回戦では中国香港に3対0のストレート勝ちをおさめました。準々決勝では韓国との対戦となり1対3で惜しくも敗れました。

なお、張本君は多くの試合でトップバッターとして出場し、日本チームの柱となって活躍しました。

【女子団体】

予選Bグループの日本は1ゲームも落とさず5戦全勝で決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメントに入ってもウクライナ、韓国を圧倒し決勝に進出しました。決勝では日本47年ぶりの優勝を懸けて中国と対戦しましたが1対3で敗れ、3大会連続の準優勝となりました。



(写真：日本卓球協会HPより)

〈卓球〉ITTFジュニアサーキット



【準優勝の柏君】

ITTFジュニアサーキットスロバキアオープンが5月17日から20日までセネツ(スロバキア)で開催され、浅津君と柏君が出場しました。

男子シングルで浅津君は決勝トーナメント2回戦で惜しくも敗れましたが、柏君は準々決勝、準決勝も勝ち抜き決勝に進出しました。決勝はKULCZYCKI選手(ポーランド)との対戦になりました。中盤までゲームカウント3対2

とリードしましたが、その後2ゲームを連取され3対4で惜しくも敗れ準優勝となりました。担当の偉関晴光コーチからも「卓球が変わった。今、勢いに乗っているので、これを継続させて大きく成長してほしい」という言葉がありましたが、今回の結果を自信に変えて、大きく成長し、ワールドランキングを更に上げてほしいと思います。また、柏君は浅津君、MEISSNER選手(ドイツ)と組んだ団体戦でも決勝に進出。ポーランドと対戦し、シングルの雪辱を果たしKULCZYCKI選手(ポーランド)3対1で勝って団体優勝を決めました。

〈レスリング〉 アジアカデットレスリング選手権

第3回ユースオリンピックアジア地区予選を兼ねた2018年アジア・カデット選手権大会がタシュケント(ウズベキスタン)で開催され、JOCエリートアカデミーから佐藤君、鏡さん、尾崎さん、の3名が出場しました。

男子フリースタイル65kg級に出場した佐藤君は、準決勝でタイムアップ寸前に逆転されて敗れましたが、3位決定戦では10対0のテクニカルフォール勝ちをおさめて3位となりました。女子57kg級に出場した尾崎さんと73kg級に出場した鏡さんは決勝までの全ての試合を10対0のテクニカルフォール勝ちという圧倒的な大差をつけて優勝を果たしました。

女子は国別対抗戦では日本が211点をマークして優勝。なお、2位はモンゴル(154点)、3位は中国(138点)でした。



(写真：日本レスリング協会HPより)

〈野外活動〉

JOCエリートアカデミーで最も大きな年間行事である野外活動を5月13日、14日の2日間、「おにし野外活動センター」(群馬県藤岡市)で実施しました。今回は競技等の関係で参加できなかったアカデミー生を除く23名が4班(男女各2班)に分かれて活動を行いました。



【1日目】

11時に到着。開校式やASE(Action Socialization Experience:社会性を育成する実習体験)などのグループアクティビティを行いました。

- ・むかで:全員が木の板の上に足を乗せ、同じタイミングで前進
- ・トランスポート:木の端から、途中ぶらさがる数少ない紐をつかみ、綱を渡り移動する など

その後、恒例となっている「班対抗アウトドアクッキングコンテスト」が行われ、どの班も食材を有効に活用して個性を發揮しつつ、工夫して夕食をつくりました。その中で榎君(班長)、遠藤君、青木君、張本君、坪君、菅野君の1班が「鶏1羽」「もち米(5合)」を使った料理で見事最優秀賞を獲得しました。また、自分の班だけでなく他の班の夕食を食べる中で、食事を作る楽しさだけでなく味わうことの喜びを感じました。

【2日目】

5時30分に起床し、使った施設・用具等の跡片付けを行い、7時から御荷鉾山(みかほやま)への登山を開始しました。御荷鉾山は二峰からなっており、初めに東御荷鉾山(1,246m)に登り、山頂付近では朝食を摂りました。その後、西御荷鉾山(1,287m)に登り、11時30分に下山しました。

その後、閉校式を行い16時にアスリートヴィレッジに到着しました。



平成23年に野外活動を初めて実施してから今回で8回目となりますが、これまでで最も充実した活動を展開することができました。その原動力となったのが、最上級生(榎君、吉田君、井浦さん、月野さん)の活動に対する意気込みです。それが後輩にも良い影響を及ぼし、積極的な活動が目立っていました。リーダーの存在の大切さを痛感するとともに、最上級生の意識などが良き伝統として後輩に受け継がれていく期待しています。また、今回の登山は起伏が激しく、登山に慣れていないアカデミー生にとって苦しいものでしたが、達成感はそのを払拭するものでした。”一人では登れなかったと思う”という感想が多く聞かれ、仲間の大切さも実感できたようです。

【野外活動感想(紙面の関係で原文から一部抜粋して掲載)】

榎 流斗

「今回のキャンプでは、あまり普段一緒に活動しない仲間の、なかなか見れないたくましい姿や、ちょっと抜けている姿など、寮ではあまり見れない一面を見ることができて嬉しかった。『あいつが実は過去にあんな経験をしていた』とか、『あいつはあんな事ができるし得意です』とか、6人の経験、知識、特技、特性を十分に発揮して終わりをむかえることができたことに、今までで一番の野外活動だったと自信を持って言えると思う。でも、まだまだ改善しようと思えばいくらでもポイントは見つかると思うので、年を重ねるごとに毎年やるこのキャンプがより良いものになる、カギとなるアカデミー生に、ぜひ今回一緒になったメンバーにはなってほしいと思う。」

張本 智和

「今回一番感じたのは『協力』でした。2年前にも協力を感じましたが、2年経ち、考えられることも増えて感じ方が全く違います。うまく協力するためにも自分が引っ張るのはもちろん、でも必ず引っ張ってもらうこともあります。その時にどれだけ最小限で自分のミスが減るか、そして引っ張るときにどれだけ自分の良い所を出せるかだと思いました。そうしてみんながレベルアップし、笑顔で楽しい日常を過ごし、充実した生活面を活かし競技に向かっていけるかが大事だと思います。」



公益財団法人 日本オリンピック委員会
JOCエリートアカデミー事業



〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
味の素ナショナルトレーニングセンター

TEL:03(5963)0355/FAX:03(5963)0356

JOCエリートアカデミーだよりは以下のHPでもご覧いただけます。
<http://www.joc.or.jp/training/ntc/eliteacademy>